

2011年 論文数に見る品質工学活用ランキング

ランク (前年)	企業名	論文数	大会発表数	各賞受賞
1	コニカミナolta	51	76	25
2	トヨタ	47	4	20
3	セイコーエプソン	26	7	6
4	パナソニック	24	48	18
5	日産自動車	21	22	21
6	リコー	18	38	1
7	アルプス電気	16	69	7
8	アルパイン・エンジニヤリング	13	44	7
9	いすゞ自動車	13	14	5
10	東芝	13	10	2
11	日立	13	6	3
12	山崎組	11	18	0
13	山城精機製作所	11	6	2
14	富士ゼロックス	8	45	2
15	東海理化	8	13	0
16	日立製作所	8	13	0
17	日立製作所	8	12	2
18	日立製作所	8	12	2
19	日立製作所	8	12	2
20	日立製作所	7	13	2
21	日立製作所	7	10	1
22	日立製作所	7	10	1
23	日立製作所	6	19	2
24	日立製作所	6	19	2
25	日立製作所	5	13	3
26	日立製作所	5	6	0
27	日立製作所	5	4	1
28	日立製作所	4	5	2
29	日立製作所	4	4	2
30	日立製作所	4	4	2

◇論文発表、各賞受賞は連名者も含む。 ◇大会発表は筆頭者のみを集計。(品質工学 Vol.19, No.2までを集計)

今回で5回目の活用ランキング集計である。企業ランキングでは、昨年(2010年)の順位に変わりのないもの、それに続く東芝(10位)、富士ゼロックス(14位)、東海理化(16位)、日精(26位)が新たにランキング入りした。今後の活躍にますます期待したい。

団体ランキングは昨年より大きな変化が見られない。しかし大手大学や研究機関が現状維持中、青山学院大学(7位)が賞状に輝いた。今年、同校は論文賞銀賞2件、学生賞トリプル受賞しており、その活躍は注目に値する。また、品質工学の地方研究会であるNMS研究会(15位)も躍進を続けている。

技術者の思考力を強化する

品質工学

6月22、23日開催

第19回品質工学研究発表大会が6月22日、23日、東京・大井町のきゅりあん(品川区立総合区民会館)で開催される。大会テーマは「技術者の思考力を強

化する品質工学」。参加費は有料(一般2万円、学生6500円)。申し込みは品質工学会事務局(TEL03・6268・9355、FAX03・6268・9350)へ。

第19回品質工学研究発表大会

ごあいさつ

3月11日の東日本大震災、最大マグニチュード9.0の大地震に引き続き、東日本の太平洋沿岸全域に及ぶ大津波に襲われました。さらにこの大震災、大津波に襲わ



品質工学研究発表大会

実行委員長 谷本 勲

大震災で多くの課題

予測技術も必要です。これら分野で力を発揮する品質工学だと思えます。今回の発表大会ではダイレクトに震災について言及はできませんが、論文の多くは視点をあてれば多くの示唆を含んでいると思います。さらに有志の方々に参加をお願いして緊急討議会、大震災と品質工学について議論したいと思います。

ボスターセッションは研究分野が個別的になるが、機械系、電気系、化学系、計測技術などに分かれての発表が行われる。分野別としたことで、参加者との議論がより深く、より具体的なものとなるであろう。新しい切り口のテーマとしては、富士ゼロックスによる全地球測位システム(GPS)の位置計測誤差評価の研究、IHIによるハンダ付け工程の改善を目的に直交表を用いてイメージパラメーター設計を行った研究が発表される。

震災乗り越え106件の研究発表

漁業がテーマに登場

田口玄一博士により開発された品質工学は、大きな花を開かせた。この花をさらに大きくすることが現在の品質工学の役割である。田口博士が病床にある中、新しい切り口での展開は、震災の影響で2件のやむを得ない発表中止があるものの、これらの危機を乗り越えて、全部で106件の研究テーマが発表される。今年3月に起きた

東日本大震災は品質工学の会員にも大きな影響を及ぼした。直接被害を受けた方々もいれば、復旧支援の活動に奔走した方々もいた。震災の影響で2件のやむを得ない発表中止があるものの、これらの危機を乗り越えて、全部で106件の研究テーマが発表される。今年3月に起きた

を中心とした集約的な発表と、ボスターセッションによる個別的な発表に大きく分かれる。大ホールでは、第1日目に①故障災害リスクをなくせ②ものづくりの最先端をいく③第2日目に④教育効果の現状を問う④技術の根本にさかのぼる⑤の四つの発表セッションを用意している。

今年度の発表は、大ホール①ではリコーの「加工

品質工学会 理事

矢野 宏

わが国の製造業の直面する課題と対応

品質工学との関わり

現在の私の関心は、どのようにつくら日本の製造業全体をグローバルに回復できるかにあります。

まず、製造業の生産性向上に向けて組織ぐるみで本気で取り組んでいるだろうか。品質工学は製造業の生

生産性向上とその持続

持続した活動にならないことも多いのです。これはなぜでしょうか。生産設備が海外へ移転してしまうことで日本の製造業の空洞化が進み、特に中小企業がダメージを受けています。技術力が高いうえに、それを生かした付加価値の高いモノづくりの方向を開拓しきれていないという問題もありません。生産性を高めて組織に余力が出たとたん人を減らしてしまう企業経営のあり方も何となくは減っています。新しいモノづくりにおいて、日本と海外の二つの違いをどう

はなではないでしょうか。講演当日は、日本の製造業のグローバル化への回復に向けて我々は何をすべきか、品質工学と絡めて私の考えをお話いたします。

品質工学会会長 伊藤 源嗣



品質工学会会長

伊藤 源嗣

Explore the Engineering Edge

IHI

IHIの、次の歴史をつくるために。

創業以来、造船にはじまり、機械工学のナレッジを活かして陸上機械へ、さらには航空・宇宙へと、IHIグループとして様々な分野に事業を拡張し、つねに新しい時代を切り開いてきました。

よりダイナミックな変革と、変革を促す新たなアイデアが求められる時代に、私たちはソフトウェア志向で、エンジニアリングの最先端を探索し続けます。

150年以上の歴史を誇る重工業企業からトータルソリューション企業として

IHIは新たな可能性を求めて、力強く、熱いスピリットで

未来に向けて挑戦していきます。

まだ誰も見たことのないエンジニアリングの最先端へ……。

<http://www.ihi.co.jp>